

## はじめに

群馬県は、海拔13mの低地から2,500mを超える高山まで、変化に富んだ地形を有し、尾瀬をはじめとした湿原や湖沼、利根川に代表される多くの清流に恵まれ、県土の約3分の2を森林が占めています。また、気候については県北部は日本海型気候、県南部は太平洋型気候と地域によって大きく異なります。このような多様な自然環境を反映して、群馬県には多種多様な動植物が育まれてきました。

しかし、高度経済成長にともなう人間の様々な活動や暮らしの変化は、自然環境に大きな影響を与えており、本県においても開発や乱獲による種の減少・絶滅、里地里山などの手入れ不足による自然の質の変化、これに加え近年では、外来生物の侵入やシカの食害などによる生態系の攪乱といった問題が発生しています。こうした問題の多くは国内外を問わず広がりを見せ、世界規模で生物多様性の今後のあり方を議論する必要性が高まってきました。

我が国では、2010年に生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が開催され、2012年には、「生物多様性国家戦略2012－2020」が閣議決定され、2013年には、外来生物法及び種の保存法の改正など、多様な主体の連携による生物多様性保全の取り組みの推進がなされており、「生物多様性に支えられる自然共生社会」の実現に向けた歩みが着実に進められています。

一方、群馬県では、2012年に群馬県レッドデータブックを11年ぶりに改訂、また、地球上で唯一自生が確認されているカッコソウの種の保存法における国内希少野生動植物種への指定など、本県に生息する希少動植物種の多くが絶滅の危機に瀕し、生物多様性の減少が明らかになっています。

県では、これまで受け継がれてきた素晴らしい自然を良好な状態で残し、後の世代に伝えるための施策の一つとして、「良好な自然環境を有する地域学術調査」を1974年度から地形・地質、植物、動物の学識経験者で構成される「群馬県自然環境調査研究会」に委託して県内各地で実施しています。

本書は、2012年度に実施した調査結果を取りまとめた報告書です。この調査結果が、本県の自然環境に関わる全ての皆様に広く活用され、本県の自然環境保全の一助となれば幸いです。

最後に、調査・執筆にあられた群馬県自然環境調査研究会の皆様には深く感謝申し上げますとともに、御協力いただいた方々に厚く御礼を申し上げます。

2013年12月

群馬県環境森林部自然環境課長

# 目 次

1	日光白根山・錫ヶ岳周辺（第2年）	1
2	藤原地域武尊山麓	103
3	覚満淵湿原及びその周辺部の植生保全について	187
4	コオイムシ科（Belostomatidae）	201
5	秋間川源流	207
6	古野尻湖	227
7	西榛名地域生物多様性モニタリング調査Ⅱ	233